

令和5年度

# 病害虫発生予察情報 第12号

## 注意報第4号

北海道病害虫防除所 令和5年(2023年)7月21日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

## てんさいの褐斑病が多発の恐れ！ 薬剤の選択と散布間隔に注意しましょう！

道内各予察ほにおいて、てんさいの褐斑病の初発が平年より早く確認されています。

札幌管区气象台による7月20日発表の1ヶ月予報では向こう1ヶ月の気温は平年より高い確率が60%と予報されています。本病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延するとされており、今後本病の発生に好適な条件となりやすいと予想されます。

本病の防除については、薬剤散布はほとんどの地域で既に開始されていると考えられますが、高温多湿時には散布間隔を短くすることを検討してください。小麦の収穫作業等により防除作業が先送りになって、薬剤の散布間隔が開きすぎないように計画的に防除を継続してください。

### 1. 発生地域 全道

### 2. 予想される発生量 多

### 3. 注意報発令の根拠

- 1) 予察ほにおける褐斑病抵抗性“やや強”品種「ライエン」の初発は、長沼町で7月3日(平年:7月9日)、芽室町で6月27日(平年:7月5日)、訓子府町で7月4日(平年:7月12日)と平年より早かった。
- 2) 予察ほの7月4日半旬調査において、褐斑病の発生株率は、いずれの地点でも平年より高く、すでに平年の8月上旬の水準に達している。
- 3) 7月3日半旬の巡回調査では、各地で発病が認められており、特に上川及び十勝地方では10%を超える地点で認められている。
- 4) 本病は高温多湿条件で多発する。7月20日発表の1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年より高い確率が60%と予報されており、特に7月22日から28日にかけては平年より高い確率が80%と予報されている。

### 4. 防除対策

- 1) マンゼブ剤および銅剤を基幹薬剤とし、散布間隔は14日以下で、高温多湿条件となった場合は散布間隔を10日以下にする。ただし銅水和剤の残効はマンゼブ剤に比べ短いので注意する。
- 2) QoI剤耐性菌の発生が広範囲に確認されているため、褐斑病に対する防除薬剤として、QoI剤(アゾキシストロビン、クレソキシムメチル、トリフロキシストロビン)は使用しない。
- 3) DMI剤(ジフェノコナゾール、テブコナゾール、フェンブコナゾール、テトラコナゾール)およびカスガマイシン剤耐性菌が全道各地で発生しているため、混合剤も含めこれら系統薬剤の使用回数を可能な限り低減する。
- 4) チオファネートメチル剤に対する耐性菌の発生が道内で確認されているため、上記3)4)も含め、薬剤の選択には特に注意する。
- 5) 本病に罹病しやすい品種が栽培されている地域では本病の発生推移に注意する。